令和５年度　学校関係者評価報告書

令和６年３月３１日

学校法人　金沢科学技術学園

（専）金沢科学技術大学校

学校関係者評価委員会

Ⅰ.令和５年度　学校関係者評価について

学校法人金沢科学技術学園　（専）金沢科学技術大学校は、文部科学省が平成２５年３月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、教職員が実施した「令和５年度自己点検･自己評価報告書」の結果に基づき、令和６年３月２１日（木）、学校関係者評価委員会を開催しましたので、次のとおり報告します。

Ⅱ．学校関係者評価委員会 委員名簿

委員氏名	関　　連
喜多　　充	高等学校関係者
織田　岳郎	地元企業関係者
飯田　三郎	業界団体関係者
前多　俊弥	1997 年度学校卒業者
智口　明美	保護者代表

Ⅲ．現状･課題と関係者評価･意見

１．教育理念･目標･育成人材像

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
②	学校における職業教育の特色として挙げられるものがあるか	4
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を描いているか	4
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生や父母等に周知されているか	3

（２）現状と課題及び改善策

本校は、「技術教育を通した人間教育」の理念のもと、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる心豊かで逞しい人間性を兼ね備えた技術者の育成を目指しています。

専門教育の充実はもちろん、資格取得の推進、進路指導及び学生指導の充実に向け、全職員が一丸となって取り組んでいます。

また、先端技術を搭載した自動車の今後の増加を見据え、今年度から自動車工学科に１級コースを設置し、技術革新に対応できるエンジニアの育成にも取り組んでいます。

こうした本校の理念や育成人材像について、学生に対しては年度当初のオリエンテー

ションをはじめ年間を通じて周知を図っていますが、保護者等に対してはまだ十分とは言えない状況にあると捉えています。そこで、これまでと同様にまずは入学式において理事長の告辞、校長の式辞の折に本校の理念等をしっかりとお伝えし、さらに来年度からは学生と教職員にのみ配布していた「学生必携」を保護者等にもお配りし、お読みいただくことで周知を図っていきたいと考えています。

（３）委員の意見等

職業教育の専門機関として、社会のニーズに対応した人材の育成に引き続き尽力していただきたい。

２．学校運営

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の運営方針は明確に定められ、教職員に明示され、伝わっているか	4
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③	運営方針を基にした各種諸規定や、人事・給与に関する諸規定は整備されているか	4
④	運営組織や意思決定機能は、規則等で明確に位置づけられ有効に機能しているか	3
⑤	教育活動に対する情報公開が適切になされているか	4
⑥	情報システム化等による、業務の効率化が図られているか	3

（２）現状と課題及び改善策

毎年、年度当初の教職員全体会議において、本校の理念に基づく運営方針について理事長等から明示され、常勤教職員に周知するとともに各学科が行う学科会議において非常勤講師への周知に努めています。さらに、月１回開催される学科長会議において学校運営に係る情報共有や共通認識を図るなど組織の強化に努めています。

また、運営方針に沿った事業計画を策定し、事業報告も行うとともに、就業規則をはじめとする諸規定を定め、そこに人事や給与等の諸々について明確に示し、適正に運用しています。

運営組織や意思決定機能については、本校全体の組織図や業務統括管理表を作成することで明確に示し、各学科と関係部署が協力し、且つ責任を持って業務に取り組んでいます。

情報公開については、本校のホームページにおいて、自己点検･自己評価、学校関係者評価、事業報告等を公開し、年１回更新しています。そのほかにも、学校概要や教育方針をはじめ、学生募集関係、各学科の紹介、あるいは日々の教育活動の様子なども公開しています。

本校独自の学生管理システムにより、学生個々のデータ（成績、出席、他）を管理し、在学生や卒業生からの種々の証明書などの発行を滞りなく行うなど、情報システム化による業務の効率化を図っています。今後も、この点でのさらなる改善に取り組んでいきたいと考えています。

（３）委員の意見等

学校のホームページは大変充実した内容になっていると思う。

業務の効率化を進めることは学校の教育力を高めることにつながるため、業務の標準化、平準化を図ることなど、できる限りの取り組みを行っていただきたい。

３．教育活動

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	教育理念に沿って、教育カリキュラムや授業内容が編成されているか	4
②	修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
④	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
⑤	関連分野の関係施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
⑦	成績評価･単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑧	人材育成目標の達成に向け、授業要件を備えた教員を確保しているか	4
⑨	先端的な知識･技術等を修得するための研修や教員の資質向上のための取組が行われているか	3
⑩	職員の能力開発のための職場内研修は行われているか	3

（２）現状と課題及び改善策

本校の理念や刻々と変化する社会のニーズを踏まえ、講義と実習が体系的に学習できるカリキュラムを編成するとともに、授業内容の充実に努めています。そのためにも、就職先の企業の意見や関連分野の関係団体とかかわりの深い非常勤講師の意見等も参考にしながら常に実践に即したカリキュラム、授業内容であるように毎年見直しを図っています。

学生と保護者に対しては、インターネットによる授業評価も含めた学校評価アンケートを実施していますが、回収率の低さが課題となっています。そこで来年度は、学生に対するアンケートについては一斉に実施する形をとり、その結果を検証し、授業改善等に繋げていきたいと考えています。

単位、成績評価、進級および卒業認定に関することは、本校の学則および施行細則により明確に定められており、全学生に配布する「学生必携」にも記載されています。この「学生必携」を活用して年度当初のオリエンテーション等で内容の周知を図っています。なお、来年度からはこの「学生必携」を保護者にも配布し、共通認識を図りたいと考えています。

自動車工学科などは、学生が国家試験の受験資格を得るためにはそれに応じた有資格教員による指導が必要なため、法規に従って必要な教員を確保しています。また、そうしたことが特に必要でない学科についても、教員としての資質、能力、指導力、人間性を備えた人材の確保に努めています。

研修や資質向上のための取り組みについては、例えば自動車工学科では、自動車メーカーが主催する技術講習会や工場見学会への参加、情報・映像学科では最新技術を紹介する県内外のイベントへの参加、建築学科では建築文化セミナーへの参加、また就職課においては、産学官交流会や企業との情報交換会への参加など、それぞれの科および課ごとに工夫をして行っています。

なお、職場内研修については、実践を通して業務に必要な知識やスキルを学ぶ、いわばOJT（On the Job Training　職場内訓練）のような形式を中心に行っています。

いずれにしても、時間的な制約はありますが、自己研鑽に励むことを怠らないように可能な限り研修等に取り組んでいきたいと考えています。

（３）委員の意見等

学校評価や授業評価は、学校教育活動の改善のためには欠かせない調査であり、ぜひ回答率を上げる工夫をしていただきたい。

４．学生指導

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	基本的生活習慣の確立のための取組が行われているか	4
②	学生の安全管理のための取組等が行われているのか	3

（２）現状と課題及び改善策

遅刻、欠席の状況や授業態度から、基本的生活習慣に課題があると思われる学生には面談等を行い指導するとともに、状況によっては保護者を交えた三者面談等を行い、改善を促しています。

本年１月１日に発災した能登半島地震は本県にとってかつてない甚大な被害をもたらしました。これまで行っている火災を想定した避難訓練に加え、地震が起きた場合の対応訓練等も実施する必要があると考えています。

また、日常の生活安全や交通安全については、学校全体で年間を通じて安全管理に取り組むとともに、学生に対しての注意喚起を行っていきたいと考えています。

（３）委員の意見等

能登半島地震で生活や学業に影響が出た学生には、できるだけの支援をお願いしたい。

５．教育成果

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	就職率の向上が図られているか	3
②	資格取得率の向上が図られているか	3
③	退学率の低減が図られているか	3
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

（２）現状と課題及び改善策

企業訪問、就職説明会や公的団体が実施する就職情報交換会への参加等を通して情報収集に努めるとともに、就職課と各学科長および担任が連携して、学生個々の適性を重視した就職支援を行い、就職率の向上を図っています。

資格については、学科ごとに取得目標資格を掲げ、それに向けて計画的な指導を実施していくことに加え、学生自らが向上心を持ってチャレンジしていくように促しています。

遅刻、欠席状況や授業態度を注視することで、退学につながるような兆候をできるだ

け早期に発見し、保護者等とも連携しながら学生をケアするように努めていることで、退学率の抑制にはつながっていると考えていますが、大幅な低減には至っていません。

卒業生の活躍については、学校案内誌に掲載して広く知らせるようにしており、在学生についても設計コンペで入選した作品を本校玄関ロビーに展示するなど、その活躍を紹介しています。卒業生、在校生の活躍はお互いの励みとなり、学校全体に良い影響を与えることから、今後もできうる限り活躍を把握し共有していきたいと考えています。

（３）委員の意見等

高い就職率を維持していることは大いに評価できる。今後も学生一人ひとりに親身になって対応していただきたい。

６．学生支援

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	進路・就職に対する支援体制は整備されているか	4
②	学生相談に対する体制は整備され、有効に機能しているか	3
③	学生に対する経済的な支援体制は整備され、有効に機能しているか	4
④	学生の健康管理を担う組織体制は整備され、有効に機能しているか	4
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦	保護者と適切に連携しているか	4
⑧	卒業生への支援体制はあるか	3

（２）現状と課題及び改善策

就職課に調査・報告係と就職指導係を置き、各学科長、副学科長および担任と連携した組織的支援体制を整備しています。

学生相談についても同様に、各課、各学科および担任が連携しながら学生の様々な相談に対応できるように努めています。

経済的な支援については、本校独自の特待生制度による授業料の減免や、学納金の分納について個別に対応するなどの支援を行っています。また本校は2021年4月より高等教育就学支援制度（授業料減免）対象校として文部科学省の指定を得ており、住民税非課税世帯及びこれに準ずる世帯の学生については授業料や入学金の免除または減額措置を受けられるようになっています。

学生の健康管理については、学生課が医療専門機関と連絡を取り合い、毎年、全学生

を対象とした健康診断を実施し、診断結果に対して医療専門機関よりサポートされる体制をとっています。

広報課が毎年主催するスポーツ交流イベントや自動車工学科の２＆４クラブなどの課外活動に対して活動費の予算措置を講じています。

一人暮らしを考えている学生には、本校の学生寮「ドミトリーKist」や提携不動産会社によるアパートの紹介を行っています。なお、今年１月には、能登半島地震の影響で登校できなくなった学生が一時学生寮に宿泊した例もあります。

また学内には食堂があり、外部の業者が食事を提供しています。

保護者との連携は大変重要であり、これまでも必要に応じて電話やメール、あるいは対面で情報共有等を行っています。成年年齢の引き下げにより、学生は父母等の同意を必要とすることなく単独で退学等の許可を得ることなどが可能となりましたが、いまだ成長の過程にあり支援が必要な学生でありますので、引き続き父母等との情報共有、共通認識をしっかりと図っていきたいと考えています。

卒業生から再就職相談等についての相談があった場合など、その都度できうる限り対応し、支援を行っています。

（３）委員の意見等

学生に対しては、彼らの自立を促しつつ、引き続き様々な支援に取り組んでいただきたい。また、そうした支援の実際をもっと発信しても良いのではないかと思う。

７．教育環境

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
②	学外実習等について十分な教育体制を整備しているか	4
③	防災に対する体制は整備されているか	4

（２）現状と課題及び改善策

施設･設備については、企業現場に即した実習機材を極力揃えることが必要であり、毎年各学科から導入機材の希望リストを提出してもらい、計画的に順次整備しています。今年度も、映像音響学科に iMac４３台、自動車工学科にスキャンツール１台を新規導入するなど、整備に努めています。

学外実習（インターンシップ）については、就職課、各学科と学生が協議し、必要に

応じ企業側の協力を得て実施しています。なお、学外実習中の事故に備え2年生は全員インターンシップ保険に加入しています。

総務課に防災・安全係を置き、全職員で防災対策に関する事項や点検体制の明確化および異常箇所の処理に関する事項に取り組んでいます。

（３）委員の意見等

引き続き、各業界の進歩に対応した教育環境の整備に努力していただきたい。

８．学生の受け入れ募集

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学生募集活動は、適正に行われているか	4
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4
④	学納金は妥当なものになっているか	4

（２）現状と課題及び改善策

学生の募集活動は、広報課を中心に年間を通じて計画的且つ柔軟に実施しています。高校訪問や高校生向けガイダンスをはじめ、ホームページ、テレビＣＭ、学校案内誌、さらには進学情報サイト等によって、本校の教育成果も含め様々な情報を正しく伝える努力をしています。また、毎月開催している体験入学会においても、参加していただいている方に学校の概要説明、施設見学、体験実習等を行い、本校についての理解を深めていただけるように取り組んでいます。

入学選考は、学校長推薦、自己推薦、上級課程、社会人、一般および特待生入試の受験区分があり、全区分において書類審査と面接を行い、これに加えて適性検査、基礎学力検査を行っている区分もあります。検査終了後、会議を開き、適正かつ公平な基準に沿って入学選考を行い、合否を決定しています。

学納金については、他の工業系の専門学校と比較しても、妥当な金額であると考えています。

（３）委員の意見等

学生募集については、地元大学の情報工学科新設などによる影響も懸念されるところであるが、Kist の教育力を一層高めるとともに、Kist の強みをどう伝えていくかということもさらに工夫していく必要があるのではないかと思う。

９．財務

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4

（２）現状と課題及び改善策

現在、中長期的に見て経営基盤は安定しており、事業計画に基づいた適切な予算組を行い、事業を実施しています。会計監査は、選任された監事２名により毎年実施され、監査報告書が作成されています。こうした財務の情報については、本校が高等教育就学支援制度の対象校ということもあり、本校のホームページに公表しています。

今後ますます進む少子化による学生数の減少を見越し、中長期的な財務収支のバランスを図る一方、学生確保のための教育体制や就職体制のさらなる強化が必要であると考えています。

（３）委員の意見等

財務状況に不安な点は見受けられないが、今後の少子化を見据え、適切な改善等を進めていただきたい。

１０．法令等の順守

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
④	自己点検・自己評価結果を公表しているか	4

（２）現状と課題及び改善策

法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っています。個人情報についても厳正に管理しています。なお、万が一の場合に備え、「サイバー保険」に加入しています。

毎年度、自己点検･自己評価を実施し、現状と課題を明らかにするとともにその改善に取り組んでいます。この自己点検・自己評価結果は、学校のホームページに公表しています。

（３）委員の意見等

引き続き、法令等の順守正をお願いしたい。

１１．社会貢献・地域貢献

（１）自己評価結果

【4：適切　3：ほぼ適切　2：やや適切　1：不適切】

番号	評価項目	評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③	地域に対する公開講座・出張講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	3

（２）現状と課題及び改善策

資格試験や入学試験の会場として年間を通して本校の施設を活用していただいており、今後も本校の教育活動に支障のない範囲で施設開放などの社会貢献・地域貢献を行っていきたいと考えています。

ボランティア活動については、たとえば、映像音響学科の学生が「山代大田楽」の記録撮影や「ミュージカル　クラウドナイン」の映像音響に係る業務をお手伝いさせていただきました。また、今年に入って能登半島地震に係る災害ボランティアに参加した学生もいます。こうしたボランティア活動は学生たちにとって大変有意義な経験となっており、今後も奨励、支援をしていきたいと考えています。

県専各連が主催する職業選択のための体験講座「学びフェスタ 2023」において、本校は、「自動車・エンジンの仕組みを知ろう」の講座を開催しました。今年度は２３名の応募者の中から選ばれた８名の中学生に、自動車工学科の教員がマンツーマンで丁寧に指導し、参加された皆さんやその保護者の方に大変喜ばれました。

（３）委員の意見等

今後も可能な範囲で社会貢献や地域貢献に努めていただきたい。